

MMCの事業活動紹介 / 1
海外動向 / 5
賛助会員の活動紹介 / 6
研究室紹介 / 8

MMCの事業活動

第9回国際マイクロマシン・ナノテクシンポジウム開催される

当センターは2003年11月13日（木）東京、北の丸公園、科学技術館のサイエンスホールにおいて、第9回国際マイクロマシン・ナノテクシンポジウム（日本小型自動車振興会補助事業）を開催しました。本シンポジウムは、経済産業省及び新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の後援を受け、「マイクロマシン技術 - ナノ技術を支える次代の産業技術基盤」をサブテーマとして講演、パネルディスカッションが行われ、会場の参加者とも活発な交流がなされ、盛況裡に終了いたしました。

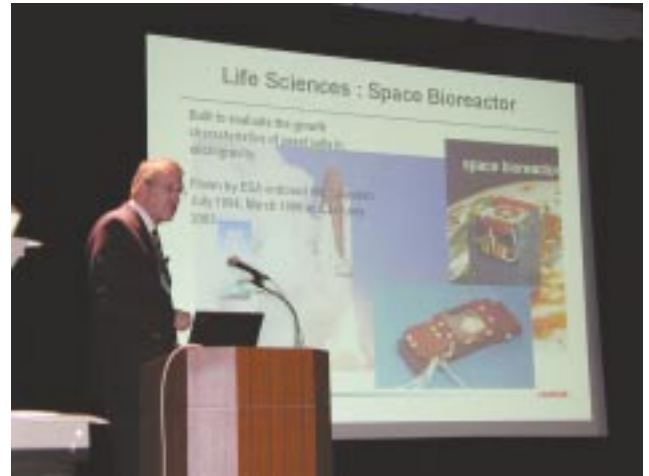


下山理事長挨拶

セッション1の「オープニング」では、当センターの下山理事長の開会挨拶に続いて、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の高橋理事から来賓のご挨拶を戴きました。その中で高橋理事は、2003年度からMETIの政策「フォーカス21」の一環として、MEMSプロジェクトを開始したことを述べられると共に、日常、NEDOのプロジェクトにご協力されている研究者および当センターの事業に対し感謝の意を表された。



Stephen D. Senturia教授による特別講演



Nico F. de Rooij教授による特別講演

続いて、欧米のMEMS先駆者による二つの特別講演が行われました。一つはスイス、Neuchatel大学のNico F. de Rooij教授による「大学から産業への技術移転」のテーマで、Neuchatel大学が関わった企業への技術移転とその応用製品について講演された。他の一つは米国のMassachusetts工科大学のStephen D. Senturia教授による「MEMSのアイデアの製品化」についての講演で、MEMSの過去と現在、MEMSの将来のトレンド、MEMSのアイデアを製品化する場合の配慮すべき視点などについて講演された。

セッション2の「マイクロマシン産業への途」では3名が講演、セッション3の「革新研究紹介」では4名が講演し、セッション4の「マイクロマシン・ナノ技術戦略（MEMSの新展開を探る）」においては4名が講演され、海外からの講演者6名を含め計13名の招待者に講演して頂きました。またセッション4の中で行われたMEMSの産業化に関するパ

ネルディスカッションは、参加者の質問に対しパネリストが回答する形で行われ、その熱の入った質疑応答に会場全体の関心が集中し好評でした。

参加登録者218名の内訳は、約83パーセントが技術研究者を含む企業関係者、8パーセントが(独)産業総合技術研究所等の公的機関、7パーセントが大学の学生及び関係者、その他が2パーセントとなっており、特に、企業の研究者の当シンポジウムへの関心の高まりが伺えた次第です。招待者、報道関係者等を加えた全参加者は297名に上り、会場は終止活気に満ちて盛況の内に終了する事ができました。最後に皆様のご協力に深くお礼申し上げます。

2004年の開催案内

第10回国際シンポジウムは、2004年11月11日(木)従来と同じ、皇居に近い東京北の丸公園の科学技術館でマイクロマシン展と共に開催します。



パネルディスカッション